

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	変化するテレビ業界を支えるフジアールの企業戦略とグローバル化への対応
調査日	2024年11月1日(金)15:00~17:30
調査先	株式会社フジアール FUJIART,INC. (東京都江東区青海 1-1-20 ダイバーシティ東京オフィスタワー17F) 小西 裕介 様
担当 CVS	小林 城司、永田 葉結希、熊崎希美
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	2年生:6名、1年生:12名
調査趣旨・目的	フジテレビ本社にてスタジオ見学を行い、フジテレビの企業概要や、デジタル化や視聴者の変化による今後のテレビ業界の展望について学びました。
調査結果	<p>今回のフジアールへの訪問では、スタジオ見学をさせていただいた。翌日の収録が予定されているという特番番組や『ノンストップ!』、『すぽると!』、『オールナイトフジコ』などのセットが組み込まれた撮影スタジオを間近で見学することができ、非常に貴重な経験となった。現場ではアートコーディネーター、照明、美術担当の方々から直接お話を伺い、演者が安全に収録に臨めるよう、セットには工夫が施されていることが分かった。また、効率よく撮影準備が進むよう、セットの組み立て手順や各担当間の連携についても工夫されており、それぞれの分野のプロが互いに協力し合い、一つ一つの番組を作り上げているということを実感した。こうした裏方での努力があってこそ素晴らしい番組ができるのだろう。</p> <p>見学後には、フジ・メディア・ホールディングスの企業概要とメディア業界全体の状況についての説明を受けた。同社は、テレビ番組の制作だけでなく、都市開発や観光事業などの展開も行っており、グループ全体で37社の連結子会社を有する大企業だ。決算説明会で用いられる資料にある、セグメント別の営業利益を見てみると、都市開発・観光事業がメディアコンテンツ事業を上回っており、これには少し意外な印象を受けた。テレビビジネスの鉄則として、視聴率の向上で広告収入が上がると言われる中、近年では、広告主がターゲットとする若年層のテレビ離れが進んでいると言われている。そこで、フジ・メディア・ホールディングスはこの問題に対応するため、TVer というネット配信プラットフォームを通じてネット進出を行ったり、自社のコンテンツのフォーマットを他国に売ったり、積極的なグローバル展開を図っている。こうした戦略で、放送局は国内ビジネスから世界ビジネスへと変貌を遂げようとしているのである。</p>

幼い頃からテレビが好きで、多くの番組を見て育った一視聴者として、最近
は、テレビ業界の衰退を感じ、寂しく感じるものがあった。しかし、現代の視
聴者のニーズや生活に合わせてネットでの配信等始めることで、これまでの
テレビ業界にはなかった新しい可能性が広がっているように思える。今回
の見学と説明を通じ、テレビ局が従来のやり方にとらわれずに時代に対応し
ていると感じ、メディア業界の未来に期待感を感じた。また、自己分析の
仕方や就活についてなども、お話しくださり、私たち学生にとって大切なこ
とを多く学べる、充実した時間だった。

※調査時の写真



会社概要やテレビ業界が抱える課題など貴重な話を聞くことができました。



最後に集合写真を撮影して締めくくりました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。